

■ 臨床検査相談コーナー（室）の取り組み紹介 ■

「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」を利用して



市立島田市民病院 臨床検査室 曾 根 利 久

当院はお茶や大井川路を走る SL で有名な田舎の総合病院です。市の農業算出額の約 7 割をお茶が占めていますので、新茶の時期は毎年きまって患者さんが減ります。当院の病床数は 536 床、一日平均入院患者数は 419.5 人、一日平均外来患者数 1,008.9 人、医師 91 名、看護師 430 名、診療技術部 120 名（臨床検査技師は臨時職員含め総勢 40 名）、電子カルテ端末 780 台の施設・人員規模となっています。現在の建物は昭和 54 年に建てられ、途中に改築も行われてきましたが、老朽化が激しく、平成 32 年に新病院を建設することになって準備が進められています。電子カルテシステムも古く、まだ周囲の病院に普及していない平成 12 年より導入を開始し、当時は見本がなくシステムエンジニアさんと職員が試行錯誤し、失敗の連続で何とかともに動き始めるまで 1 年以上かかりました。平成 21 年にハードを更新しましたが、ソフト面は基本的な部分は初期に制作したままで、OS は Windows Xp が現役で動いております。私も開発にかかわったシステムですので愛着はありますが、いよいよ長年使ったシステムもハードディスク容量がいっぱいになり、来年更新することになっています。島田市の財政は決して豊かでないので、使えるものはなるべく長く使う節約の精神が根付いており、“健全経営をおこなう”が当院の基本方針の一つとなっています。

当院には臨床検査相談室はありません。検査説明書は以前に先輩技師が作成してくれたものがあり、医事会計近くの院外処方箋コーナーに置いて、希望された患者さんに配布しておりましたが、平成 25 年 9 月ごろ事業管理者から検査説明書の字が小さく、内容も専門用語が使われ解りにくいため、作り直すように命じられました。若手検査技師 4 名と私でチームを作り、何回か先輩技師が作った説明書の表現を変えデザインを改良し、事業管理者に提案しましたが、了解してもらえませんでした。「いいか、医療関係者でない君のお父さんやお母さん、親戚のおじいさんが読んで、理解できるものでないとだめだ。患者さんが簡単に理解できるものを作れ。」と言われ、しばらくアイデアが浮かばず困っていたところ、若い技師が web で国立病院臨床検査技師協会が作成された「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」を見つけて、提示してくれました。始めに臓器別の主な検査項目の図による説明があり、その次に一つ一つやさしく噛み砕いた検査の項目説明がある。これなら医療関係者でない親父やお袋でも理解できる。下の方に“※無断転載はお断りします”とあったので、使用させていただきたい旨のメールをしたところ、直ぐに当時本部の事務局長であった土井誠先生より使用許可と共に電子媒体での提供をいただき、ありがたく思いました。

チームで検討し、そのまま使わせて頂こうとの結論で事業管理者に提言しましたが、またもや課題が出ました。「わかり易くうまくできているが、これを院外処方箋コーナーに常設するのではなく、医師が外来診察室で患者さんへ検査結果を説明する時に、簡単に使用できるようなものにしてほしい。」と言われ、また悩みました。「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」（第 1 版）は表紙を入れると 7 ページあり、診察室で印刷しながら使用するにはページが多すぎます。あらかじめ各科の診察室に印刷して設置するのは、既に方々手狭になっているので苦情が予想され、診療科によっては物理的に置けないということで、次のような方針を立てました。① A4 用紙表裏使った一枚に凝縮する。②臓器別検査項目の図はわかり易さが表現でき、患者さんを引き付けることができるので真似て残す。③対象を採血検査中心にし、生理検査項目を省く（検査時口頭で伝えられる）。④検査項目名は文字数が増えるが、例えば“HbA1c”は“ヘモグロビン A1c”とも表現されるので、標準名と略名の両方を。⑤「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」の検査の説明をさらに簡略化し文字数を減らす。この 5 つの方針を元に、国立病院臨床検査技師協会で作成したものを改変させていただきました。原本の「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」に比べ、検査説明の内容が大まかで薄くはなりましたが、A4 用紙一枚に両面印刷するファイルが完成し、平成 26 年 1 月に事業管理者の了承が得られ、運用を開始しました。

看護師からは「学生時代習った事ですが、患者さんに聞かれた時に参考にさせてもらっています。」「図があるのでわかりやすい。」と高評価でした。実際どれくらいの患者さんの手に検

チーム医療推進の中で、臨床検査技師には医療提供の一つとして検査説明の体制作りが望まれています。当院に限らず、臨床検査を市民や患者さんにアピールする目的で、今後さらに「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」が広く利用される機会が益々増えて隆盛されると思いますので、今後もお力添え宜しく願います。